「こっちみて」

あらすじ

人気急上昇中のアイドル、星野輝(かがやき)。「国民の幼馴染」と呼ばれるほど世の女性たちの人気を集める彼には誰にも言えない秘密が。それは幼馴染の小栗まほに恋をしていること。しかしアイドルに恋愛はご法度。

まほは輝を応援しており、公式グッズの、輝をキャラクター化したぬいぐるみと常に行動を共にしている。

ある日不良に絡まれたまほ。駆けつけた輝は、まほを助け、震える彼女を抱き寄せる。すると、まほの口から出た言葉は「気持ち悪い」。

予想外の言葉に呆気に取られる輝に、まほはある告白をする。まほは輝の「ぬいぐるみ」に恋をしている。生き物ではない「物」を恋愛対象とする、対物性愛者だった。

全く理解ができない輝は、なんとか人間の自分に好意を向けさせようと奮闘する。そんな中、メンバーの恋愛ゴシップで大騒動に。マネージャーから女との接近禁止命令が出され、しばらくまほと会えなくなる。その間まほはネット友達の鎌田京介と会っていた。京介も恋愛対象が人間ではない対物性愛者。彼の愛する恋人はうさぎのぬいぐるみだ。同じ悩みを抱える二人は仲を深める。

京介の存在に焦った輝は、勢いでまほにキスをする。人間の唇を受け入れられず、まほは嘔吐してしまう。輝はショックを受け、活動休止にまで追い込まれる。輝の不在に悲しむファンの姿を見て、自分を責めたまほは、愛しているぬいぐるみを捨てる。休養中の輝はこのままアイドルを辞めようとしていた。だがマネージャーやメンバーに説得され、ファンの笑顔を思い出し、ある決意をする。

そして輝復帰のライブが開催される。心配するまほが見守る

中、輝はまほが捨てたはずのぬいぐるみを掲げ、アイドルして完全復活を遂げる。

ライブ終了後、輝はまほにぬいぐるみを返し、まほの感情は間違っていないと、対物性愛を受け入れる。ぬいぐるみに向けるまほの笑顔に、輝は幸せを感じる。輝はアイドル活動を続け、新グッズとしてぬいぐるみの着せ替えを販売するのだった。

登場人物

星野　輝（かがやき）（18）　アイドル

小栗　まほ（18）輝の幼馴染

沢田　歩（22）　アイドル

鈴原　怜（19）　アイドル

望月　圭太（20）アイドル

別所　陽介（18）アイドル

塚地　茜（27）　マネージャー

鎌田　京一（20）大学生

○ライブ会場・アリーナ

黄色い歓声を浴び、ステージで歌い踊っている星野輝（かがやき）（18）。

客席でうちわを持っている小栗まほ（18）。

うちわには『こっちみて』と書かれている。

輝、まほのもとに駆け寄る。

まほに向かって手を差し伸べる。

輝「僕は、君だけのアイドルになりたい」

観客「キャー！」

輝「君が好きだ！」

まほ、眉をひそめ嫌そうな顔をする。

○星野家・輝の部屋（朝）

輝「ハッ！」

輝、飛び起きる。

スマホのアラームが鳴り響く。

輝「（息を切らしながら）夢……」

○カフェ・店内

若い女性客で賑わっている店内。

男性アイドルのアクスタとともに写真を撮っている客たち。

一人席のまほ、カバンからぬいぐるみを取り出す。

輝をキャラクター化したぬいぐるみ。

まほ、ぬいぐるみに微笑みかける。

○事務所・レッスン室

振付師「輝！　そこ遅い！」

輝「はい！」

ダンスレッスンを受けている男性アイドルグループ『スターチューン』のメンバーたち。

振付師「はい、じゃあ十分休憩！」

メモ帳を持って振付師に駆け寄る沢田歩（22）。

歩「あの、フォーメーションのことで相談があるんですけど」

T「沢田歩　メンバーカラー：ファイヤーレッド」

Tシャツで汗を拭く鈴原怜（19）。

怜「あっつ……」

T「鈴原怜　メンバーカラー：クールブルー」

自撮りをしている望月圭太（20）。

圭太「汗かいてる僕かわいい！」

T「望月圭太　メンバーカラー：ファンタスティックピンク」

別所陽介（18）、輝にペットボトルを渡す。

陽介「お疲れ様」

T「別所陽介　メンバーカラー：ヒーリンググリーン」

輝「ありがとう」

T「星野輝　メンバーカラー：シャイニングイエロー」

○同・会議室

椅子にどっしり構えている塚地茜（27）。

茜「スターチューンの諸君、おはよう！」

一同「おはようございます！」

一斉に頭を下げる『スターチューン』のメンバーたち。

茜「我が事務所が総力を挙げて売り出している君たちに求めてることは何だと思う？」

歩「パフォーマンスの質！」

怜「顔」

圭太「キュートさ」
陽介「思いやり」
輝「えっと、明るさ？」
茜「ノースキャンダルだよ！」
輝「え？」
茜「アイドルに恋愛は厳禁！　特に今は大事な時なんだから、恋なんかにうつつ抜かしてる暇ないんだからね！」
歩「分かってます！　セカンドシングルも13位までいったし、ネクストブレイクランキングでも三位。ここが頑張り時ですね！」
茜「国民のお兄ちゃん、歩！」
歩「はい！」
茜「国民の先輩、怜！」
怜「あほらし」
茜「国民の弟、圭太！」
圭太「はぁい」
茜「国民の同級生、陽介」
陽介「えへへ」
茜「そして！　国民の幼馴染、輝！」
輝「は、はい」
茜「キャッチコピー通りキャラを厳守すること！　分かった？」
一同「はい！」
輝「はい……」

○星野家・輝の部屋（夜）

輝、窓を開ける。

目の前にはまほの部屋が見える。

まほ、窓を開け糸電話を投げる。

輝、紙コップを耳に当てる。
まほ「お疲れ様！　かっくん」
向かい合わせの窓から糸電話で繋がっている輝とまほ。
輝「まほ、普通に話そうよ」
まほ「だめ！　誰が見てるか分からないんだから」
輝「大丈夫だって」
まほ「かっくんはもう私だけの幼馴染じゃないんだから。国民の幼馴染なんだから」
輝「それ恥ずかしいんだけど」
まほ「すごいなぁ」
輝「うん？」
まほ「小っちゃいときから一緒だったかっくんが、今や大人気のアイドルなんだもん」
輝「僕は何も変わってないよ」
まほ「次のライブも楽しみにしてるね！」
輝「……ありがとう」
まほ「疲れただろうからもう休んで！　おやすみ！」
まほ、糸電話を手放して窓を閉める。
輝、糸電話を手に取る。

○ライブハウス・グッズ売り場
若い女性ファンたちで埋め尽くされている会場。
次々と『スターチューン』メンバーのぬいぐるみが売れて行く。

○同・会場内
パフォーマンスを披露するメンバーたち。

客席で見ているまほ。
手には輝のぬいぐるみ。
客席に向かって手を振る輝。
歓声が沸き上がる。

○同・楽屋
茜「お疲れ様！　いやぁ、よかったんじゃない？」
歩「ありがとうございました」
圭太「（むくれて）今日ピンクのペンラ少なかった」
怜「最近黄色多いよな」
茜「頑張ってるじゃない、輝。て、あれ？」
陽介「あ、風に当たりたいって」

○同・非常階段
しゃがみ込みぼーっとしている輝。
まほの声「離してください！」
輝「まほ？」

○同・裏口
男1「いいじゃん、俺らと遊ぼうよ」
男2「今流行りの量産型ってやつ？　かわいーね」
男2、まほのツインテールを掴む。
まほ「嫌！」
男1「釣れないこと言わないでさ。これ何？」
男1、まほからぬいぐるみを奪う。
まほ「触らないで！」
男1「いいよー、この子も一緒に遊ぼうか」
男1・2、ぬいぐるみを投げ合い遊ぶ。

まほ「やめて！」
輝の声「やめろ！」
まほ、振り返ると輝が走ってくる。
まほ「かっくん！」
輝、まほに駆け寄る。
男１「あ？」
男２「なんかこいつテレビで見たことあんな」
男１「芸能人？」
男２「なんかアイドル？」
男１「（鼻で笑って）どおりでヒョロいと思った」
男２「どっか行けよ。その子に用があんだよ」
輝「お前たちがどっか行け」
男１「おいおい、喧嘩でもしようってか？」
男２「テレビ出てるやつがまずいんじゃないの～？」
輝「関係ない。僕は、まほのためならどうなってもいい」
まほ「かっくん……」
男１「ふんっ。あー、萎えた」
男２「かっこつけてんじゃねぇぞ」
男１・２、ぬいぐるみを地面に叩きつけ去っていく。
まほ「あっ……」
まほ、ぬいぐるみに駆け寄る。
その手は震えている。
輝「まほ」
輝、まほを抱きしめる。
輝「もう大丈夫だよ」
まほ、輝を見つめる。
輝「まほ……」

唇が近づきそうになる輝とまほ。
まほ、輝を突き飛ばす。
輝「え？」
まほ「――気持ち悪い！」
まほ、ぬいぐるみを拾い上げ走り去る。
輝「……え？」
一人取り残される輝。

○事務所・レッスン室
体育座りでうつむいている輝。
歩「（こそこそと）輝はどうしたの？」
怜「知らねー」
圭太「うわ暗」
陽介「なんか知らないけど朝から落ち込んでて」
輝「僕って気持ち悪いですか？」
茜「はぁ？　何、アンチ気にしてんの？」
輝「僕は気持ち悪い人間です……」
茜「あんたには大勢のファンがいるのよ。　自信持ちなさい！」
茜、輝の背中を思い切り叩く。
輝「イテッ」

○星野家・輝の部屋
輝、窓の外を見つめている。
目の前のまほの部屋はカーテンが閉まっている。
輝、糸電話の片方をまほの部屋の窓に投げる。
反応がない。
輝、ため息をつく。
まほの部屋のカーテンが開く。

まほ、窓を開ける。

輝「まほ！」

まほ「……この間はごめんなさい。私が言ったことは忘れて」

まほ、窓を閉めようとする。

輝「待って！」

ピタッと止まるまほ。

輝「あのとき、すごく傷ついた」

まほ「ごめんなさい」

輝「まほのことが好きだから」

まほ「え？」

輝「好きなんだ。ずっと前から」

まほ「……ごめんなさい」

輝「やっぱり、僕のこと嫌いなんだね」

まほ「違う！」

輝「じゃあ他に好きな人がいるとか？」

まほ、小さくうなずく。

輝「そっか……」

まほ「ちょっと待ってて」

まほ、部屋に戻る。

持ってきたのは輝のぬいぐるみ。

まほ「私の好きな人」

輝「（ぬいぐるみを見て）僕？」

まほ「違う」

輝「……アイドルとしての僕が好きってこと？」

まほ「違う」

輝「じゃあどういうこと？　全然分かんないよ」

まほ「ぬいぐるみが好きなの！」

まほ、ぬいぐるみをぎゅっと抱きしめる。

まほ「私、ぬいぐるみが恋愛対象なの」
輝「え？」
まほ「だから……ごめんなさい！」
まほ、窓を閉めカーテンを閉める。

○事務所・レッスン室
輝、スマホを見ている。
画面には『対物性愛者』のページ。
輝「（ぼそぼそと）生き物ではない『物』に対し性的、恋愛的感情を抱くセクシュアリティ……」

○ラブホテル・客室
回転ベッドの上にいるベビードール姿のまほ。
輝のぬいぐるみを抱きしめている。
ぬいぐるみの口にキスをする。
ごろんと寝転び、ぬいぐるみと見つめ合う。
肩紐をずらす。

○事務所・レッスン室
輝「（我にかえって）変態じゃないか！」
陽介「輝、大丈夫？」
輝「（ビクッとして）へ？　あ、うん」
陽介「この前から様子がおかしいけど、なんかあった？」
輝「いや、別に……」
陽介「そう？」
輝「……陽介ってさ、好きな人いる？」
陽介「（笑って）いないよ。アイドルだもん」
怜「アイドルだって恋愛くらいするだろ」

歩「ちょっと！　塚地さんに聞かれたら」
圭太「まぁアイドルも人間だからねぇ」
輝「人間……」

○小栗家・玄関
チャイムが鳴る。
まほ、ドアを開ける。
まほ「はーい？」
立っていたのは輝。
まほ「かっくん！」
まほ、慌ててドアを閉めようとする。
輝、ドアを抑える。
輝「この前の話の続きをさせて！」

○同・まほの部屋
輝、部屋を見渡すとぬいぐるみで溢れている。
輝「相変わらずぬいぐるみ多いね」
小さな椅子に座っている輝のぬいぐるみ。
輝、じっと見つめる。
輝「それが、好きな人？　人っていうかぬいぐるみだけど」
まほ、うなずく。
輝「ちょっと調べたんだけど対物性愛ってやつ？　で合ってる」
まほ「そう呼ぶみたいだね」
輝「ぬいぐるみだよ？」
まほ「うん」
輝「生きてない」
まほ「うん」
輝「喋らないし動かない」

まほ「うん」
輝「まほを抱きしめることだって、キ、キスだって、いろいろできないでしょ」
まほ「できるもん」
輝「へ？　ど、どうやって？」
まほ「いいでしょ何でも！」
輝「とにかくおかしいよ！」
まほ「理解されないのは分かってる。でも、本当に愛してるの」
輝「じゃあ僕にしてよ」
輝、輝のぬいぐるみを持つ。
輝「これ、僕が元になってる」
まほ「知ってる」
輝「すなわちこれは僕だよ」
まほ「違う」
輝「僕だって！」
まほ「かっくんはフワフワでモコモコじゃない！」
輝「え……？」
まほ「だから、かっくんのことは好きになれない」
まほ、輝のぬいぐるみを見つめている。
そんなまほを見つめる輝。

○撮影所・スタジオ
記者「輝くんの好みのタイプは？」
輝「（力なく）フワフワでモコモコ……」
記者「なるほど、コグマ系女子ね！」
メモを取る記者。
陽介、心配そうに輝を見る。
×　×　×

写真撮影している歩と圭太。

陽介「輝、本当に何かあった？」

輝「僕なんで生きてるんだろう」

陽介「悩みがあるなら聞くよ！」

怜「恋愛系の悩みか？」

輝、うなずく。

怜「ガツガツ行けよ。お前今や女子高生の彼氏にしたいランキング四位だぞ」

陽介「それ怜くんが一位だったやつ？」

怜「俺よりはだけどお前はモテる。自信持て」

輝「生理的に受け付けられてないんですよ？」

怜「はぁ？　ありえないって。今をときめくアイドルだぞ？　ちょっとデートすれば振り向かせられるって」

輝「……そっか」

陽介「輝？」

輝「僕の方に向かせればいいんだ！」

○動物園・入口

帽子とマスク、伊達メガネで変装している輝。

まほ、近づいてきて、

まほ「かっくん？」

輝「まほ！」

まほ「どうしたの？　大事な話って？」

まほ、動物園の看板を見る。

まほ「ここで？」

輝「うん。もうチケット買ってあるから。行こ」

輝、ゲートに向かう。

まほ「待って！」

まほ、慌てて輝のあとを追う。

○同・ふれあいコーナー

モルモットのふれあいコーナー。

まほ「かわいい！」

輝「かわいいね」

まほ、モルモットを撫でる。

満足気にまほを見る輝。

輝「どう？　まほ。生き物ってかわいいでしょ？」

まほ「うん？　私元々動物好きだよ」

輝「あったかいし、呼吸してるし、生き物最高だよね」

まほ「（よく分からず）そう、だね？」

輝「あっちで馬にも乗れるよ！　行こう！」

○同・運動場

馬に乗っているまほ。

柵の外から見ている輝。

まほ「わぁ！　すごい！」

輝「まほー。どう？」

まほ「楽しいー！」

輝「よかったよかった」

○同・広場

まほ、ヤギに草を食べさせる。

まほ「わぁ食べた！」

輝「まほ、生き物は食べれるんだよ」

まほ「（よく分からず）そう、だよ？」

輝「（ヤギに）おいしいかい？」

○同・売店

列に並んでいる輝。

輝「順調順調。このまま生き物に興味を持ってくれれば」

○同・休憩所

輝、ジュースを二つ持って歩いてくる。

輝「お待たせ！」

席に座っていたまほ、輝のぬいぐるみを見ている。

優しい顔でぬいぐるみに微笑みかけているまほ。

輝「……」

輝、席に着く。

輝「飲み物買って来たよ」

まほ「ありがとう、かっくん」

輝「持って来たんだ」

まほ「うん。どこに行くにも一緒なの。最近はぬい活する人も多いから変に思われないし」

輝「ぬい活？」

まほ「好きなキャラとかアイドルとかのぬいぐるみとお出かけすること。SNSに写真上げたりするんだよ」

まほ、輝にスマホを見せる。

まほ「ほら」

輝「へぇ」

SNSにはスターチューンのぬいぐるみの写真の投稿もある。

輝「まほも投稿してるの？」

まほ「私のはそういうんじゃないもん」

まほ、ぬいぐるみを見つめる。

まほ「私はデートしてるから。SNSに上げるのはなんか惚気みたいで恥ずかしいんだ」
輝「そう……」
まほ「おかしいと思ってるでしょ」
輝「正直」
まほ「いいの。私が愛していれば」
輝「……いろいろ調べたら、人へのトラウマで物しか愛せなくなったって人のことが出てきた」
まほ「そう」
輝「まほも何かあったの？　僕が知らないところで。だったら僕、トラウマを克服できるよう手伝うから！」
まほ、首を横に振る。
まほ「何もないよ。物心ついた時から、私はぬいぐるみしか好きになれなかった」
輝「じゃあ恋っていうかそれは単にかわいくて好きっていう」
まほ「かっくんは私と付き合って何がしたい？」
輝「それは……（と照れる）」
まほ「かっくんがしたいこと、私もしたいと思うの」
まほ、ぬいぐるみを触って、
まほ「この子と」
輝「僕じゃだめなの？」
まほ「うん……」
輝「フワフワでモコモコじゃないから？」
まほ「そうだね」
輝「そっか」
まほ、立ち上がって、
まほ「私ちょっとお手洗い」
まほ、ぬいぐるみをテーブルに置く。

輝「置いてくの」
まほ「恥ずかしくて一緒に行けないよ」
まほ、歩いていく。
輝、天を仰ぐ。
輝「どうしようもないな……」
テーブルの上には輝のぬいぐるみ。
輝、ぬいぐるみを指でつつく。
コロンと転がるぬいぐるみ。

○事務所・会議室
怜「（こそこそと）デートは上手くいったか？」
輝「どうこうできる問題じゃないんだ……」
怜「なんだその女。どんだけいい女なんだ？」
茜、勢いよく入ってくる。
歩「お疲れ様です」
圭太「どうしたの？　塚地ちゃん」
茜「どうしたもこうしたもないわよ！　やってくれたな！」
輝「え？」
茜「言ったよね？　ノースキャンダルって。何デート現場撮られてんの！　SNSに拡散されてんだけど！」
輝「えぇ！」
茜「大事な時だっていうのにもう……」
輝「す、すみませーー」
茜「陽介！」
輝「へ？」
輝、陽介を見る。
陽介「すみません……」
輝「陽介？」

茜、スマホを見せる。
画面には陽介と女が手を繋いで歩いている写真。
茜「この相手は誰？　まさかファンじゃないでしょうね」
陽介「中学の同級生です」
茜「（ため息をついて）とにかく事務所からはただの友人ってことで報告出すから。別れなさい」
陽介「……どうしてですか」
茜「はぁ？」
陽介「どうしてアイドルは恋愛しちゃいけないんですか？　それが当たり前、みたいになってて飲み込むしかなかったけど、よく考えてみればおかしいですよね？」
輝「確かに……」
陽介「彼女とはアイドルになる前から付き合ってます。それを、アイドルになった途端恋愛禁止なんて」
茜「それはあんたたちが夢を売ってそのお金でデートしてるからよ」
歩「ファンはいい気しませんよね……」
怜、輝に向かって、
怜「（こそこそと）バレなきゃしてないことと同じなのにな」
茜「絶対バレないなんてない！　ファンの嗅覚舐めんな！」
圭太「わぁ、怖」
茜「あんたたちはまずファンを第一に考えること！　あんたたちの光は、ファンの汗と涙の結晶なのよ！」
× × ×
（フラッシュ）
ライブ会場で光っている黄色のペンライト。
× ××
輝「そう、ですね……」

茜「これ以上スキャンダルは起こせないから！　全員女との接近禁止！」
歩「はい！」
怜「はぁい……」
圭太「僕よりかわいい子いないし」
陽介「……」
輝「え、えぇ？……」

○カフェ・入り口前
キョロキョロ辺りを見渡すまほ。
男の声「まほ、さんですか？」
まほ、声のした方を見ると鎌田京一（20）、立っている。
まほ「はい」
京一「初めまして、京一です。あ、入りましょうか」
まほ・京一、カフェに入る。

○事務所・レッスン室
電話をしている怜。
怜「あ、みほちゃん？　ごめんね、しばらく会えないわ。いや浮気とかじゃなくてさぁ」
陽介、頭を下げる。
陽介「すみませんでした」
圭太「彼女とは別れんの？」
陽介「そうするしか、ないと思ってます」
歩「うーん。かわいそうだけど……」
怜「俺も切ったんだからお前も女切れよ」
圭太「あれ。怜にしては珍しー」

怜「俺本気でトップ取りたいんだ。そのためには仕方ないだろ」
輝、ため息をつく。
怜「輝もな」
輝「……はい」
怜、輝に肩組みして、
怜「(こそこそと) 売れればまた遊べるって。まぁ今狙ってる女は取られてるかもしれないけど」
輝「……」

○カフェ・店内
ぬい活している客で賑わっている。
まほ、バッグから輝のぬいぐるみを取り出す。
まほ「私の恋人です」
京一、うなずく。
トートバッグからうさぎのぬいぐるみを取り出す。
京一「僕の彼女です」
まほ「(うさぎのぬいぐるみに) 初めまして」
京一「(微笑んで) ありがとうございます」
まほ「京一さんは今日みたいに対物性愛者の人とよくオフ会してるんですか?」
京一「はい。みんなSNSで繋がって。まほさんは?」
まほ「私は京一さんが初めてです。自分が対物性愛者っていうのも、あまり人に話したことなくて」
京一「僕も、自分と同じじゃない人にはあまり知られたくないかな」
京一、店内を見渡す。
京一「昔はこそこそ隠れてやってたんですが、最近はぬい活が流行ったおかげで堂々とできるようになりました」

まほ「ぬい活万歳ですよね」
京一「まほさんの彼氏さんは、アイドルでしたっけ」
まほ「はい。実は幼馴染がアイドルやってて」
京一「へぇ！」
まほ「その彼をキャラクター化したグッズなんです」
京一「最近ありますね、そういうの」
まほ「ある時新しいグッズが出るってなって、物販に行ったら、この子と目が合ったんです」
まほ、輝のぬいぐるみを見つめる。
まほ「手に取った瞬間、ドキドキして。恋に、落ちました」
京一「その時から対物性愛は自覚してたんですか？」
まほ「いえ。最初は人間の彼の方が好きなのかなって思ったんです。でも、ドキドキ感が違くて」
京一、うんうんとうなずく。
まほ「いろいろ調べるうちに、自分が対物性愛者なんだって知りました。思えば昔からそういうとこあったなって」
京一「ぬいぐるみに？」
まほ「はい。初めはクマのぬいぐるみでした。どこに行くにも一緒で。でもある日もう汚いからって母に捨てられたんです。その時の落ち込みようと言ったらもう」
京一「分かります。想像しただけで胸が張り裂けそうです」
まほ「京一さんはいつから？」
京一「自分も物心ついた時からですかね。彼女は子どもの時に親に買ってもらって」
まほ「でもきれい。大事にされてるんですね」
京一「（微笑んで）愛してますから」
まほ、微笑む。

○公民館・ホール

スタッフ「CD購入者特典会こちらでーす！」

『スターチューン握手会』の看板。

それぞれのメンバーごとにレーンができており、

行列をなしているファン。

ファンの声「やっぱり陽介のファン減ったね」

ファンの声「しょうがなくない？　これに懲りればいいけど」

ファンの声「やっぱ陽介の顔見るの辛いよ」

ファンの声「推し変しなって」

誰も並んでいない陽介のレーン。

陽介、小さくため息をつく。

輝のレーンでは次々とファンが握手を求めにくる。

ファン「輝くん大好きです！」

輝「ありがとう！」

ファンの手には輝のぬいぐるみ。

輝「（ぬいぐるみを見て）……」

ファン「輝くんは裏切らないよね？」

輝「……うん」

○星野家・輝の部屋（夕）

輝、窓を開けて向かいのまほの部屋を見つめる。

糸電話を手に取る。

が、そのまま何もできない。

ため息をついて窓を閉める。

○公園

ベンチに座っているまほと京一。

それぞれぬいぐるみを抱えている。

京一「また一緒に出かけてくれてありがとう。女性がいると怪しまれないから。ね」

京一、うさぎのぬいぐるみに問いかける。

まほ「こちらこそ。同じファンとお出かけしても結局人間の方のアイドルの話になって」

まほ、辺りを見渡すとカップルが多い。

まほ「私たち、外からはカップルみたいに見えてるんですかね」

京一「実際ダブルデートなんだけどね」

まほ「(笑って)ね」

まほ、輝のぬいぐるみを見つめる。

まほ「実は、人間の方の彼に、告白されたんです」

京一「幼馴染の?」

まほ「はい。ずっと一緒にいたから、びっくりしました」

京一「少女漫画みたいな話だね」

まほ「普通は、夢のようなんでしょうね」

京一「彼には何て?」

まほ「ぬいぐるみが好きだからごめんなさいって」

京一「伝えたんだ」

まほ「やっぱり理解はされなかったです」

京一「……僕も普通になりたくて、人間の彼女を作ったこともあったんだ」

まほ「そうなんですね」

京一「でも」

京一、うさぎのぬいぐるみを見つめ、

京一「彼女ほど愛情を注げなくて」

まほ、うさぎのぬいぐるみを見る。

京一「結果的に相手を傷つけることになった」

まほ「……」

京一「僕らの愛は誰かを傷つける」
まほ「そんな。ただ、愛してるだけなのに」
京一「きっと、いつか僕たちは恋人と離れた方がいいんだろうね」
まほ「でも」

×××

（フラッシュバック）

輝、まほを抱きしめる。

×××

まほ「彼の大きさは私には受け入れられない」

○住宅街

京一「じゃあ今日はありがとう」
まほ「ありがとうございました」

京一、歩いていく。

見送るまほ。

輝、まほに向かって走ってくる。

輝「まほ！」
まほ「（ビクッとして）かっくん」

輝、まほの肩を掴む。

輝「今の誰？」
まほ「今のは（と口をつぐむ）」
輝「まさか人間に興味持ったとか？　今の人好きなの？」
まほ「その……」
輝「どうして僕じゃだめなの？」
まほ「かっくん離して」
輝「僕だって、ずっとまほのことーー」

まほ、ぬいぐるみをぎゅっと抱きしめる。

助けを求めるようにぬいぐるみを見つめる。

輝「こっち見てよ！」
輝、まほにキスする。
輝「僕はまほが好きだよ」
まほ「――オェッ！」
まほ、嘔吐する。
呆気に取られる輝。
咳き込み苦しそうなまほ。
輝「そんなに……受け入れられない？」
まほ「ご、ごめん……」
輝、フラフラとした足取りで歩いていく。
まほ「かっくん……」

○ライブハウス・入り口
紙が貼られている。
内容は『星野輝活動休止のお知らせ』。

○同・廊下
ファンに詰め寄られている茜。
茜「直前のお知らせで大変申し訳ございません。メンバーの星野輝は体調不良のため無期限の活動休止とさせていただきます」
ファン「じゃあ払い戻しできますか？」
ファン「輝くんは大丈夫なんですか？」

○同・楽屋
怜「これからだってのに……」
歩「どうしようか、これから……」
圭太「メンタル系は復帰遅いからねー」
陽介「輝……」

○CDショップ・店内

『スターチューン』のグッズコーナー。

黄色のグッズを持ったファンが集まっている。

ファン1「輝くん大丈夫かな……」

ファン2「まじ生きた心地しない」

ファン3「うちら推しに生かされてるもんね」

まほ、うつむく。

ファン1，泣き出す。

ファン2「大丈夫？」

ファン1「(泣きながら) ごめん……。やっぱしんどくてさ」

ファン3「分かる分かる」

ファン1「好きな人が離れるのって、こんなに辛いんだね」

ファン2、ファン1に抱きつく。

ファン2「辛いよー！」

ファン1・2・3、抱き合う。

わんわん泣く。

その様子を見ていたまほ、ぬいぐるみをぎゅっと抱きしめる。

○星野家・輝の部屋

カーテンが閉め切られた暗い部屋。

布団に潜り込んでいる輝。

ドアがノックされる。

無視する輝。

ノックの音がだんだんと強くなる。

輝、慌てて起き上がる。

輝「どうしたの、お母さ――」

輝、ドアを開ける。
と、ドアを叩いていたのは茜。
輝「塚地さん！」
輝、慌ててドアを閉めようとする。
が、茜がドアを抑え閉められない。
茜「ちょ！　開けなさいよ！」
攻防する輝と茜。
×××
ベッドの上で正座している輝。
腕を組み仁王立ちしている茜。
輝「ご迷惑をおかけしてすみません」
茜「本当にね。払い戻しでうちがいくら損失したか分かってる？
給料から引いとくから」
輝「はい……」
茜「（ため息をついて）冗談よ」
輝「……僕、アイドル辞めたいです」
茜「アンチのせい？　気にすんなって。あんたを嫌いな奴より好
きな人が圧倒的に多いんだから」
輝「たった一人にだけ好きになってもらいたかったんです」
茜「まさか恋愛絡み？」
輝、うなずく。
茜、ため息をつく。
茜「どいつもこいつも、普通の男の子気取り？」
輝「普通の男の子です」
茜「あんたたちはアイドル！　一般人じゃないの」
輝「僕はもともとその子のためにアイドルになったんです」
茜「ばかみたいな理由」
輝「その子がテレビに出てるアイドルを見てかっこいいって言っ

たから。アイドルになれば好きになってもらえるって……」
茜「私がオーディションであなたを見た時、なんて思ったか分かる？」
輝「いえ……」
茜「この子は輝く。そう思ったの」
輝「僕なんか」
茜「あんたご両親に感謝しなさい？　素敵な名前と、名前負けしないルックスをもらったんだから」
輝「僕なんか」
茜「その女敏腕プロデューサーかなんか？」
輝「いえ」
茜「でしょうね、センスないもん。とりあえずとっとと復帰しなさい。ファンもメンバーも待ってる」
茜、ドアに向かう。
茜「マジで彼女への想いだけでここまでやってきたんだったら尊敬するけどね」
茜、輝を見て、
茜「本当にそれだけ？　あんたには、あのファンの笑顔が見えなかった？」
輝「僕はもう無理です」
茜「じゃあ新メンバー募集するから」
茜、ドアを開ける。
茜「一生そこで輝きを失ってなさい」
茜、出て行く。
茜「元アイドル、なんて肩書きでインフルエンサーになったら承知しないからな」
バタンと閉まるドア。
ドアを見つめる輝。

○遊園地・入口

おしゃれをしたまほ、チケットを持って歩いている。

手には輝のぬいぐるみ。

○同・コーヒーカップ

カップにはカップルやグループが乗っている中、一人でくるくる回っているまほ。

一緒に乗っているのはぬいぐるみ。

まほ「わー！」

楽しそうにはしゃぐまほ。

○同・ゴーカート乗り場

周りが二人乗りしている中、一人で運転している

まほ。

助手席にはぬいぐるみが座っている。

まほ「わぁ！　危ないー！」

○同・ジェットコースター乗り場

並んでいるまほ。

スタッフ「お次の方どうぞー！」

まほ、進む。

スタッフ「ごめんなさい、お姉さん。安全のため、そちらのぬいぐるみはロッカーに預けるか鞄の中にしまっていただけますか？」

まほ「あ……」

まほ、ジェットコースターの方を見ると、一回転

している。

まほ「じゃあやめます」

まほ、ぬいぐるみを握りしめ列を外れる。

○同・お化け屋敷

まほ、恐る恐る進んでいく。

おばけの仕掛けが動く。

まほ「キャー！」

まほ、ぬいぐるみをぎゅっと抱きしめる。

あまりの力強さに潰れるぬいぐるみ。

○同・休憩所

座っているまほ。

まほ「ごめんごめん」

まほ、ぬいぐるみの形を整える。

ジュースを持ち、ぬいぐるみと一緒に自撮りする。

○事務所・レッスン室

ダンス練習している歩・怜・圭太・陽介。

輝、入って来る。

歩「（気づいて）輝！」

輝に駆け寄る一同。

歩「身体は大丈夫？」

怜「なんかブスになった？」

歩、怜の口を手で抑える。

圭太「待ってたよー。やっぱ一人でも欠けちゃうとスターチューンじゃないよね」

陽介「輝……」

輝「僕……」

輝、頭を下げる。

輝「辞めます」

歩「え？」

怜、輝の胸ぐらを掴む。

歩「怜！」

怜「お前の覚悟はそんなもんだったのかよ」

歩、怜と輝を引きはがそうとする。

歩「やめろ！」

圭太「ちょ、顔はだめだよ！」

怜「俺たち結成した時に誓ったよな。この五人でてっぺん取ろうって」

輝「すみません」

怜「足が棒になるまで踊って、喉ガラガラになるまで歌って、ここまで来たのに今辞めれんのかよ！」

怜、輝を突き飛ばす。

歩、輝に駆け寄る。

歩「輝！　大丈夫か？」

圭太「確かに。なんかがっかり」

圭太、しゃがんで輝の顔を覗き込む。

圭太「僕の次に顔がいいから、輝はいいライバルになると思ったんだけどなぁ」

圭太、立ち上がり輝に背を向ける。

圭太「僕の一人勝ちか」

怜「てめぇ俺を訳ありグループのメンバーにする気かよ。そんなんじゃかっこつくもんもつかねぇだろうが！」

輝「すみません……」

歩「輝、俺らは五人で輝く星、スターチューンだよ。考え直さな

いか？」
輝「僕にはもう、アイドルをやる理由がないんです」
歩「理由？」
怜「モテねぇから？」
圭太「僕が一番だから？」
陽介「……分かったよ。辞めたいなら辞めればいい。今、輝が辞めれば僕の火消しになるだろうし」
歩「みんな……」
陽介「事務所に置いてる荷物も持って帰りなよ。今日はそのために来たんでしょ？」
輝「うん」
歩「そんな……。輝」
陽介「これも持って帰ってね」
陽介、段ボールを持ってきて輝の前に置く。
輝、段ボールを開けてみると、中には大量の手紙。
輝「これ……」
陽介「輝が休んでる間来たファンからの手紙」
輝、手紙を見てみると、『ずっと待ってます』と書かれている。
歩「握手会でさ、輝のファンが俺の列に来たんだ。輝くんのことよろしくお願いしますって」
圭太「僕のとこにも来た。推し変してきたのかと思ったのになぁ」
怜「わざわざCD買って伝えに来るなんてな」
陽介「辞めるにしても、ちゃんと自分の口で伝えなよ。そのファンたちに向けて」
輝、うつむく。

○遊園地・観覧車内

観覧車に乗っているまほと輝のぬいぐるみ。
まほ、窓の外を見る。
まほ「わぁ高い。楽しいね、輝くん」
まほ、ぬいぐるみに微笑みかける。
ただ向かいの席に座っているぬいぐるみ。
まほ「……かっくん、大丈夫かな」
まほ、ため息をつく。
まほ「私のせいだよね……やっぱり。私があんなことになったから、かっくんを傷つけちゃった」
まほ、輝のぬいぐるみを見て、
まほ「ごめんね他の男の子の話して」
まほ、うつむく。
まほ「でも、かっくんは大事な友達なんだ」
まほ、窓の外を見て、
カップルが見える。
まほ「私の愛は人を傷つける……」
まほ、ぬいぐるみを見つめる。
まほ「何も言わないで」
ぽつんと置いてあるぬいぐるみ。
まほ「そのまま、何も言わないで……」
まほ、ぬいぐるみを手に取る。
優しくキスをする。
唇にぬいぐるみの毛が張り付く。
微笑んで唇を舐め、指で毛を取り除くまほ。

○住宅街（夕）
まほ、スマホを操作している。
輝のぬいぐるみと撮った写真を削除する。

スマホをバッグにしまい、歩いていく。
ゴミ捨て場には置き去られた輝のぬいぐるみ。
×　×　×
段ボールを抱えた輝、歩いてくる。
ゴミ捨て場が見える。
輝、段ボールを見つめて、
輝「……」
×　×　×
朝。
走っていくゴミ収集車。
ゴミ捨て場には何もない。

○ライブハウス・会場内
ファンの声「輝くん復帰してよかったね！」
ファンの声「いやまだ油断できないよ」
ファンの声「まさか辞めるって発表するんじゃ……」
ファンの声「ありえるね……」
まほ、うちわとペンライトを持っている。
まほ「かっくん……」

○同・楽屋
円陣を組んでいるスターチューンのメンバー。
歩「輝復帰公演、気合い入れていくぞ！」
陽介「輝」
陽介、輝を見る。
歩・怜・圭太、輝を見る。
陽介「いいんだね？」
輝「うん」

○同・会場内

照明が暗くなる。

歓声が上がる。

○同・舞台袖

輝、マイクを持ち、前を向く。

○同・会場内

祈るようにステージを見つめるまほ。

音楽が流れ、ステージに出てきたスターチューンのメンバー。

大きな歓声が上がる。

まっすぐ前を向いてパフォーマンスする輝。

× × ×

輝「この度はご心配おかけしてすみませんでした」

ファンの声「おかえりー！」

ファンの声「待ってたよー！」

拍手が起こる。

まほ、拍手する。

歩「（マイクを通さず）輝」

輝、歩を見る。

歩、うなずく。

輝、怜を見る。

怜、うなずく。

輝、圭太を見る。

圭太、うなずく。

輝、陽介を見る。

陽介「（マイクを通さず）輝」
輝、うなずく。
輝「みなさんに、僕から伝えたいことがあります」
ざわつくファンたち。
輝「僕は」
輝、ポケットから輝のぬいぐるみを取り出す。
まほ「あ……！」
輝、客席のまほと目が合う。
見つめ合う輝とまほ。
輝「僕は……、アイドルを辞めません！」
ステージをまっすぐ見つめているまほ。
輝「僕はこれからも、アイドルとして光輝き続けます！」
歓声が上がる。
歩「これからもスターチューンに付いて来て！」
音楽が流れ始める。
怜「光の速さでトップへ行くから、遅れんなよ？」
ファン「キャー！」
圭太「眩しいくらいきらめくけど目を離さないでね！」
ファン「キャー！」
陽介「もう、みんなを泣かせないから！」
ファン「頑張れ陽介―！」
ファン「ついてくよー！」
陽介「――ありがとう！」
歌が始まる。
ペンライトを振るファンたち。
色とりどりのペンライトの光が輝いている。
ぬいぐるみを持ったまま歌っている輝。

○同・裏口

輝、まほにぬいぐるみを差し出す。

輝「はい。ゴミ捨て場にあったのを拾った」

しかし受け取らないまほ。

輝「これ、まほのでしょ？」

まほ「捨てたの」

輝「あんなに大切にしてたのに」

まほ「だって、ぬいぐるみと恋をしてるなんておかしいでしょ？」

輝、ぬいぐるみを見る。

まほ「私のおかしさは、人を傷つけてしまう。だから……。別れたの」

輝「おかしくなんかない」

まほ「だって……」

輝「……アイドルはさ、恋愛しちゃいけないんだ」

まほ「え？」

輝「夢を売る仕事だから。ファンの理想を壊さないために、自分の恋心は捨てなきゃいけない。そんなのおかしいよね」

輝、ぬいぐるみを撫でる。

輝「でも、ファンがアイドルに恋をするように、僕たちアイドルもファンに恋をするんだ」

○同・会場外

笑顔で帰路につくファンたち。

輝（N）「どうすればもっと応援してもらえるか、どうすればもっと喜んでもらえるか、そればっかり考えてる」

輝のぬいぐるみを持っているファン。

○同・裏口

輝「(笑って) これってもう恋なんじゃないかな。僕は、ファンに恋してる。アイドルだから」

輝、微笑む。

まほ「私の恋は、かっくんみたいにきれいじゃない」

輝、首を横に振る。

輝「この子、本当に大切にしてたんだね。糸のほつれもないし、丁寧にされてたんだなって分かる」

輝、ぬいぐるみを見つめ、

輝「きっと僕も、それくらい大切にする」

まほ「かっくん……」

輝「まほの愛は、間違ってないよ」

輝、まほを見つめる。

輝「僕はアイドルだから」

輝、ぬいぐるみを差し出す。

輝「アイドルだからファンの笑顔を守るよ」

まほ、輝からぬいぐるみを受け取る。

ぬいぐるみを見つめ、涙が溢れる。

ぎゅっと抱きしめ、笑顔になる。

まほの笑顔を見て、微笑む輝。

○ライブ会場・アリーナ

MC中。

歩「この度輝が新グッズを考案しました！　みんなもうチェックしてくれたかな？」

歓声が上がる。

圭太「輝にしてはセンスいいよね」

怜「そのアイディアはどっから湧いて来たんだ？」

輝「みんなにもっとぬい活を楽しんでもらいたくて」

○同・グッズ売り場
うちわやペンライトなどのグッズが並ぶ中、メンバーのぬいぐるみも売っている。
ぬいぐるみの横にはぬいぐるみ用の衣装が並んでいる。

○同・アリーナ
輝「いろんな場所で、いろんな服を着て、一緒におでかけしてもらえたら、離れていても僕たちと一緒に楽しめるんじゃないかって」
陽介「やっぱり輝はアイドルだね」
輝「(笑顔で)うん」
歩「かわいいよね！　ねぇみんな！」
メンバー、それぞれ新しい衣装を着たぬいぐるみを掲げる。
歓声が上がる。
ファンの声「かわいいー！」
ファンの声「ありがとうー！」
笑顔で客席を見る輝。
× × ×
輝、歌いながらファンに向かって手を振る。
客席のまほを見つける。
輝のぬいぐるみを抱きしめているまほ。
ぬいぐるみは新しい服を着ている。
まほ、笑顔で輝に向かって黄色のペンライトを振る。
輝、笑顔で手を振る。

【終】